

# YAMAKADO NEWSLETTER

NO.131

2010/10/25

山門水源の森を次の  
世代に引き継ぐ会

10月11日から名古屋で開催されている COP10 (生物多様性条約第10回締約国会議) の公式エクスカージョンの一環として 24 日午後 21 名(プラス随員 9 名)が「山門水源の森」に来訪されました。

楽舎正面には中西会員とご家族合作の歓迎横断幕も設置し歓迎ムードを盛り上げました。参加者の国籍は、カナダ・アメリカ・ドイツ・中国・台湾・タイ・マレーシア・インド・イラク・チュニジア・ケニア・ナイジェリア・ブラジル・ネパール・日本でした。当日は、楽舎でのガイダンス後 2 班に別れ沢コースで湿原に向かい尾根コースを降りてくるというコースでガイドを行いました。あいにく小雨の中でしたが、「山門水源の森」の植物地理学的特徴・地質学的特質・湿原の復元作業・ミヤコザミ等の絶滅危惧種の増殖等の内容でガイドを行いました。楽舎に戻ってから、ささやかなティーパーティーを行いながら、参加者に感想を書いてもらいました。個性的な英文で編集子にはスペルも?と苦戦していますが、タイから参加された PATANIN さん(政府関係者)は I think the working trip is very educational and I enjoy the atmosphere of the forest very much. Please keep the forest this way as long as you could and thank you very much for such a wonderful experience you gave me. またチュニジアから参加された TRIMECHE さん(政府関係者)は、「残念ながら雨でしたが、トレッキングは大変興味深く、多くを学びました。湿地と生物多様性を守るために滋賀県の方々が大変な努力をされていることを学びました。大変素晴らしいことだと思います」と。突っ込んだ議論もありましたがただ交流時間が限られていたのが残念でした。



歓迎横断幕設置完了



中央湿原で解説する伊藤会員

2010/10/24 14:40  
Phot. BY FUJISAWA

容でガイドを行いました。楽舎に戻ってから、ささやかなティーパーティーを行いながら、参加者に感想を書いてもらいました。個性的な英文で編集子にはスペルも?と苦戦していますが、タイから参加された PATANIN さん(政府関係者)は I think the working trip is very educational and I enjoy the atmosphere of the forest very much. Please keep the forest this way as long as you could and thank you very

ティーパーティーで歓談  
Phot. BY HASHIMOTO

much for such a wonderful experience you gave me. またチュニジアから参加された TRIMECHE さん(政府関係者)は、「残念ながら雨でしたが、トレッキングは大変興味深く、多くを学びました。湿地と生物多様性を守るために滋賀県の方々が大変な努力をされていることを学びました。大変素晴らしいことだと思います」と。突っ込んだ議論もありましたがただ交流時間が限られていたのが残念でした。

10月20日には、会議が行われた名古屋の滋賀県ブースでパネル展示を行いました。会員 8 名が参加し各種団体の展示を見て回りました。このようなイベントに参加をしたのは本会としては初めてのことで準備も大変でしたが収穫もおおきいものがありました。



## 保全作業は続く

各種催しが続くものの、本会の所期の目的である保全作業も手抜きは出来ません。日々あちこちで保全作業を続けています。今月の保全作業日(16日)は、紅葉シーズンを間近に控えて「四季の森」の林床整備を行いました。枯死木や



四季の森林床整備(10/10/16)



スカッとした整備後の林床(10/10/16)

雪害木等を整理し、それを利用して立派なベンチもできあがりました。既に一部のコハウチワカエデは紅葉が進んでいます。



レイカディア米原校のみなさん(10/10/22)



氷期の「雪窪」地形が明瞭に(10/10/22)

10月22日にはレイカディア大学米原校の皆さんが保全作業に来て頂きました。この日は「四季の森」の南側斜面の整備を行い右の画像のようにきれいな林床になりました。来春はスミレをはじめとする草本が新芽を出さだろうと夢が膨らみます。またこの地形(斜面の凹凸)は、氷河時代に雪窪(周氷河地形)があった名残と考えられます。このような地形は森の中に何カ所もあります。

## セイタカアワダチソウの根絶を目指して

「やまかど・森の楽舎」の北側林道沿いへの侵入雑草除去作業を開始したのは、2005年6月5日のことでした。以来毎年何回もの除去作業を繰り返してきました。もしこの作業を行っていなかったら、この場所は



安曇川河岸の状態(10/10/22)



ススキの刈り取りが終わった林道(10/10/24)



最初の除去作業(05/06/05)

上の左の画像のような状態になっていたことは間違いありません。しかし、各種ボランティア団体や会員の執拗な除去作業によって今は、根絶直前までこぎ着けることが出来ました。もちろんこのように減少したのは、自然植生の復元の影響も無視できません。最近岐阜県の中学校から来年6月に「山門水源の森」で、140名が体験学習が出来ないかとの問い合わせが旅行社を通して打診がありました。「山門水源の森」でそのような多数の作業ができる内容を検討した結果、「林床整備」と「侵入雑草除去」が考えられるとの返事をしました。後日旅行社からその内容で受け入れて欲しいとの返事がありました。中学生に作業をさせるとなると、現地の安全性を確保する必要があります。そのため上の中央の画像のように作業する場所の主にススキ(今刈っておかないと来年6月に内部に入れない)を刈り取る作業も行っています。保全活動に各種ボランティアが活動してもらうのは非常にありがたいことですが、その作業がスムーズに進む事前準備も大切です。

近々の保全作業は、11月6日(土)山門老人会の方による刈り払い作業です。一緒に作業を行います。